

手軽で簡単な動画ポートフォリオを活用した授業改善

兵庫県三田市立ゆりのき台小学校 教諭 歳内 利裕

キーワード：手軽，簡単，日常的，動画，デジタルポートフォリオ，デジタルカメラ，SDカード，タブレットPC

1 研究のねらい

近年、学校現場ではビデオカメラの普及に伴って、動画を活用した学習指導が試みられるようになってきている。しかし、学習環境の構築や編集作業等に多くの時間と労力を要し、教師の負担が大きいため、日常的に手軽に活用されるまでには至っていない。

動画を中心としたデジタルポートフォリオを日常的に活用していくためには、少ない労力で、誰にとっても手軽であり、簡単に行える必要がある。そこで本研究では、学校現場にある機材でデジタルポートフォリオを活用した学習指導ができるシステムを開発すると同時に、そのマニュアルを作成し、どの学校でも実践できる環境の構築に取り組んだ。さらに、開発したシステムを使って授業実践を行い、デジタルポートフォリオの日常化を試みた。動画を中心としたデジタルポートフォリオの有効性を最も顕著に検証できるという観点から教科については、体育科を選択した。

日常的なデジタルポートフォリオの実現は、児童にとって魅力ある授業が展開され、学習を終えた時のデジタルポートフォリオは子ども達の学びの足跡を記録した宝物となるに違いない。そして授業におけるICTの活用が、自ら課題を見つけ、自ら取り組む児童の学習を促進することになると考えた。

2 企画の実際

授業の最初に、タブレットPCで学習用コンテンツを表示しながら、技能ポイントや練習方法を確認する一斉指導を行った。タブレットPCは教室前廊下に設置し、いつでも見ることができるよう工夫した。また学習時にはタブレットPC本体を運動場に持ち出し、デジタルカメラを接続して必要な時にいつでも学習用コンテンツやポートフォリオを閲覧できるようにし、児童が主体的に学習に取り組めるように試みた。(図1)

運動場での授業終了後、児童はタブレットPCとデジタルカメラを教室に持ち運んだ。教室でデジタルポートフォリオ(図2)を閲覧しながら、学習の振り返り活動を行った。前時までのバトンパスと本時のバトンパスを比べたり、学習用コンテンツの模範演技と比べたりしながら、学習成果や次時のめあてを見つける活動を行った。

振り返り活動(図3)の中で、友達がよくやったところを見つけたり、また、自分の映像を見た後、グループ内の模範となる友達の映像を見て、比較したりすることで、達成感や次時のめあてを持つことができたようである。

3 研究の成果

- これまで蓄積することが難しかった屋外で学習する領域において、手軽で簡単にデジタルポートフォリオを蓄積し、活用することができるシステムが実現した。
- 教員は動画ポートフォリオを作成するために多くの労力を費やすことなく、動画ポートフォリオの閲覧に十分時間を費やすことができた。このことにより、児童一人一人の成長やつまずきがわかり、適切な支援ができるので日常化につながった。
- 児童は自分の学習活動を客観的に見ることができるので、よいところや修正するところに気づき、自分なりのめあてを持ちながら意欲的に学習できた。
- 上達する姿が目に見える形で残っていくことで、児童の達成感や学習意欲の向上に結びついた。



図1 主体的に課題を見つける



図2 デジタルポートフォリオ画面



図3 学習の振り返り